

2014年11月18日

2014年度上期(第2四半期)決算説明

[2014年4月～2014年9月]

株式会社 A D E K A 代表取締役社長 郡 昭夫

1. 2014年度上期 連結業績
2. 2014年度 業績予想
3. 事業施策
4. 新規事業の育成
5. ご参考
 - 海外売上高

2014年度上期 連結業績の概要



連結

(単位：億円)

	2013年度上期	2014年度上期	増減	増減率 (%)
売上高	957	1,001	43	4.6
営業利益	60	68	7	12.5
経常利益	63	72	8	13.9
四半期純利益	42	50	8	19.0

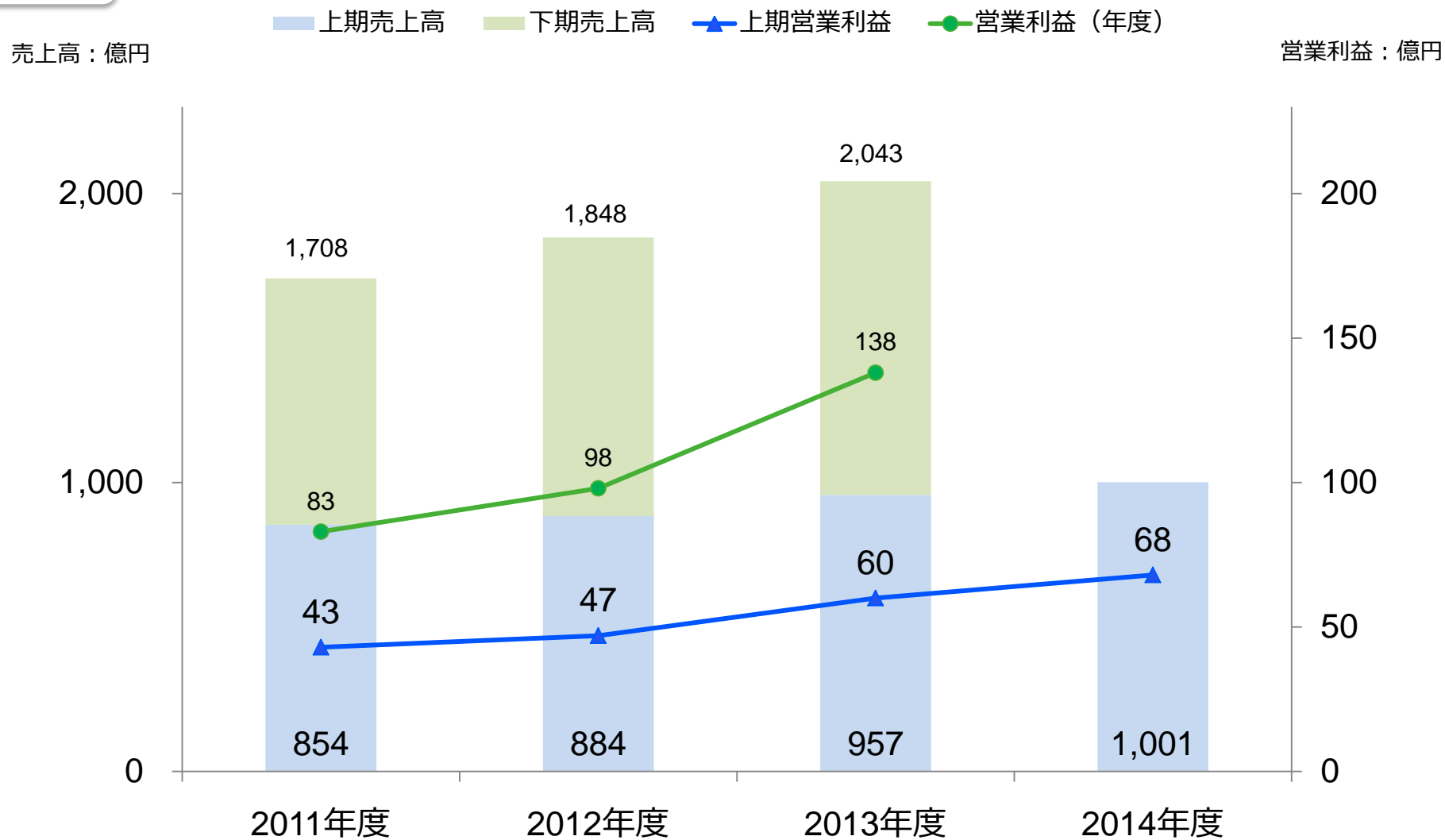
1株当たり 四半期純利益 (円/株)	40.8円	48.6円
配当金 (円/株)	11円	12円

- 自動車向けの高機能な樹脂添加剤や、エンジンオイル添加剤、情報機器向けの感光性材料などが海外を中心に好調に推移し、原料価格上昇などの影響を受けた食品事業が苦戦したものの、前年同期に比べ増収増益となった。
- 中期経営計画「STEP 3000」の最終年度となる今年度は、マレーシア現地法人での加工油脂工場の竣工、鹿島工場西製造所でのメディカル材料用実験棟の建設、千葉工場での低ハロゲン特殊工ポキシ樹脂の製造設備の新設など、「海外事業の拡大」と「新製品の創出」に向けた投資を戦略的に推し進めた。

連結業績推移



連結



2014年度上期 連結業績（セグメント別数値）



(単位：億円)	2013年度上期	2014年度上期	増減	増減率(%)
売上高	957	1,001	43	4.6
化学品	670	703	33	5.0
情報・電子	93	100	7	7.8
機能化学品	492	527	34	7.0
基礎化学品	83	75	△ 8	△ 10.2
食 品	266	265	△ 1	△ 0.6
その他	20	33	12	57.6
営業利益	60	68	7	12.5
化学品	47	61	14	29.7
情報・電子	13	19	6	48.7
機能化学品	37	40	2	7.5
基礎化学品	△ 3	1	4	—
食 品	10	3	△ 7	△ 65.6
その他	2	3	0	27.3

注) 金額は億円未満を切り捨てて表示

連結
情報・電子 (増収・増益)

1. 半導体材料は、スマートフォンなどの安定した需要を背景に、最先端の半導体メモリに使われる高誘電材料の販売数量は底堅く推移したが、価格競争により販売価格は低下した。
2. 回路材料は、タッチパネルの透明電極用及びリードフレーム用のエッチング薬剤が伸長したが、全体としては横ばいで推移した。
3. 光学フィルムやフォトレジストに使用される感光性材料は、海外での需要が拡大し、競争力の高い独自製品が伸長した。

(単位：億円)

	2013年度上期	2014年度上期	増減
売上高	93	100	7
営業利益	13	19	6

連結
機能化学品（増収・増益）

1. 樹脂添加剤は、国内の自動車及び建材向けの一部で需要が落ち込んだが、海外では造核剤、光安定剤などの高機能製品及び難燃剤、可塑剤が伸長した。
2. 界面活性剤は、化粧品原料が国内外で好調に推移した。
3. 潤滑油添加剤は、自動車の省燃費性で高評価を得ているエンジンオイル添加剤が海外を中心に大きく伸長した。
4. 機能性樹脂は、自動車向け高機能接着剤原料が伸長したが、総じて低調に推移した。

（単位：億円）

	2013年度上期	2014年度上期	増減
売上高	492	527	34
営業利益	37	40	2

[連結](#)

基礎化学品（減収・増益）

1. プロピレングリコール類や過酸化水素及びその誘導品などは、国内需要の低迷と原材料及び燃料の大幅な価格上昇など厳しい状況が続いたなかで、引き続き販売価格の改定や物流拠点の見直しなどのコスト削減に取り組んだ。

（単位：億円）

	2013年度上期	2014年度上期	増減
売上高	83	75	△8
営業利益	△3	1	4

連結
食品（減収・減益）

1. 需要の落ち込みが一部見られたものの、販売数量面ではマーガリン類、ホイップクリーム類とも前年同期並みに推移した。
2. 原料油脂や乳製品などの原材料価格上昇の影響を大きく受け、収益面は厳しい状況となった。

（単位：億円）

	2013年度上期	2014年度上期	増減
売上高	266	265	△1
営業利益	10	3	△7

2014年度 業績予想及び環境要因



連結

(単位：億円)

	2014年度			対前年度 増減	増減率 (%)
	上期 (実績)	下期 (予想)	通期 (予想)		
売上高	1,001	1,198	2,200	156	7.7
営業利益	68	73	142	3	2.8
経常利益	72	77	150	△ 9	△ 6.0
純利益	50	49	100	8	9.3
1株当たり純利益 (円/株)	48.6円	48.2円	96.8円		
配当金 (円 / 株)	12円	12円	24円		

		2014年度前提	
		期初	下期
為替	円/\$	103.00	103.00
	円/€	138.00	140.00
ナフサ	円/KL	72,000	72,000

2014年度 業績予想（セグメント別）



連結

(単位：億円)

	上期実績 (a)	下期予想 (b)	通期予想 (a)+(b)	前年度実績 (c)	対前年度 増減 (a)-(c)	増減率 (%)
売上高	1,001	1,198	2,200	2,043	156	7.7
化学品	703	841	1,545	1,435	109	7.7
情報・電子	100	114	215	206	8	4.0
機能化学品	527	637	1,165	1,047	117	11.2
基礎化学品	75	89	165	180	△ 15	△ 8.6
食品	265	314	580	553	26	4.7
その他	33	41	75	54	20	37.5
営業利益	68	73	142	138	3	2.8
化学品	61	60	122	108	13	12.7
情報・電子	19	14	34	36	△ 2	△ 7.7
機能化学品	40	44	85	78	6	7.7
基礎化学品	1	1	3	△ 7	10	-
食品	3	9	13	23	△ 10	△ 45.8
その他	3	3	7	5	1	18.6

➤ 情報化学品

■ 光材料

光硬化樹脂や光重合開始剤は、光学フィルムや半導体レジストの用途向けなど、事業領域の拡大とシェア拡大を狙う。

■ 画像材料

好調が続く液晶パネルやフラットパネル向けに、ブラックマトリクス原料や現像液などの販売を拡大し、シェア拡大を狙う。

➤ 電子材料

■ 半導体材料

高誘電材料は、販売競争の激化と価格低下が進行するなか、旺盛なDRAM需要に対応し、販売数量の拡大を図る。

NAND・ロジック半導体向けの販売活動を強化し、業容拡大を図る。

■ 回路材料

エッチング薬剤は、スマートフォン・タブレット端末の高機能化に対応し、台湾・中国・韓国での採用拡大を目指す。

■ 高純度ガス

液晶パネルや光ファイバー向けの販売数量を伸ばし、シェア拡大を目指す。

➤ 樹脂添加剤

■ グローバル競争力の更なる強化

中東・南米・アジアなど新興・成長市場の開拓による販売地域の拡大と販売製品の拡充を推進する。

- ADEKA AL GHURAIR ADDITIVES LLC (UAE)
：ワンパック顆粒添加剤のプラントを増強
⇒2014年11月に試運転を開始。
- ADEKA FINE CHEMICAL(THAILAND)CO.,LTD. (タイ)
：テクニカルサービスセンターを拡充
⇒サンプル生産・評価サービスなどを現地化し、
顧客サービスの充実を図る。



▲ ADEKA AL GHURAIR ADDITIVES LLC

■ 重点製品の拡大：

難燃剤や汎用酸化防止剤の更なる販売拡大を海外で推進する。

- ハロゲンフリーのイントメッセント系難燃剤は、射出成形品、電線分野関連、各種エラストマー用途への市場導入を推進する。
- 縮合リン酸エステル系難燃剤は、海外での販売強化により更なるシェア拡大を狙う。

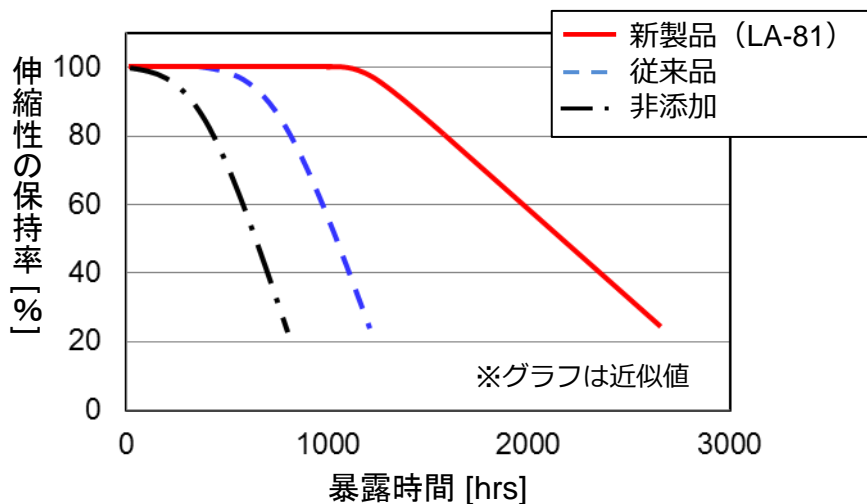
■ 新製品の開発促進

環境調和型製品など、世界で通用する独創性・新規性のある樹脂添加剤の創出

- アデカスタブ LA-F70（長波長紫外線吸収剤）…自動車の外・内装材、フィルム、化粧品原料など
保留性と光安定性に優れ、光劣化に影響のあるUV-A領域（320nm-400nm）の紫外線吸収能力に優れる
- アデカスタブ LA-81（ヒンダードアミン系光安定剤）…農業用フィルムなど
耐熱性と酸性条件下での性能に優れ、樹脂の耐候性を大きく向上させることができる

《アデカスタブ LA-81 ヒンダードアミン系光安定剤》

《低密度ポリエチレンフィルムの耐候性》



促進耐候性試験（サンシャイン・ウェザーメーター, 63°C, 雨あり）



▲農業用フィルムの用途例（ビニールハウス）

➤ 界面活性剤

■ 潤滑油添加剤

エンジンオイル添加剤は、欧米、アジアでの販売を強化するとともに、ディーゼルエンジン用途への展開を促進する。

■ 化粧品原料

品揃えの拡充と各国での法規登録や許認可の対応を行い、国内外の化粧品メーカーでの採用拡大を目指す。

- ゲル化剤 : 美容液などに処方し、透明性が高く、ゼリーのような弾力性を与える。
- グリコール : 保湿効果があり、皮膚への刺激性が少ないのが特徴。
各種処方での安定性が高く、クリームや乳液、化粧水などに展開する。

➤ 機能性樹脂

■ エポキシ樹脂

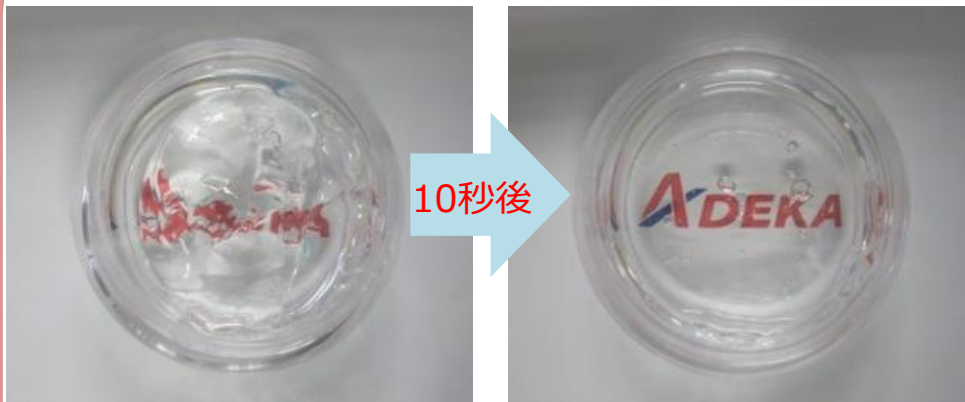
電子材料の微細化、低塩素化などの市場要求に対応し、電材用エポキシ樹脂の販売拡大を目指す。2014年5月に千葉工場で低塩素エポキシ設備完工。

■ 水系樹脂

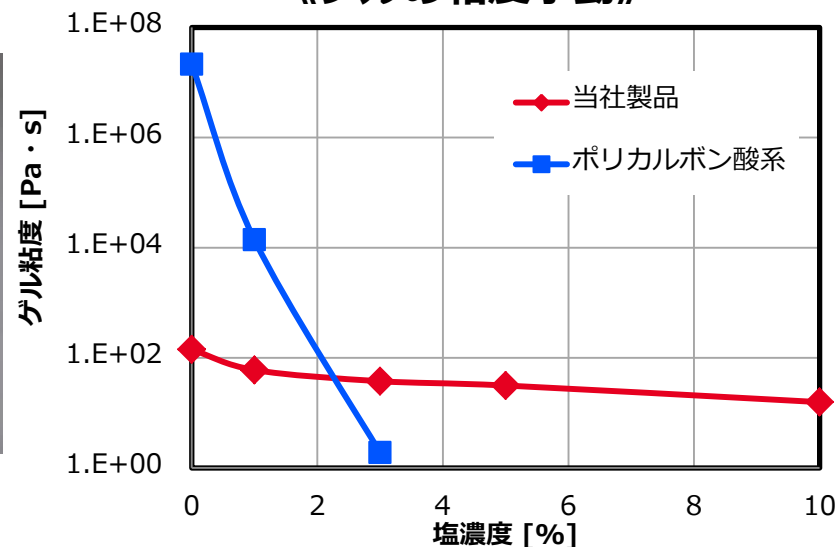
鋼板、ガラス繊維向けなどの既存分野について海外展開を推進するとともに、自動車内外装、フィルム・コーティング剤など新規用途への展開を進める。

化粧品原料素材【アデカノール GTシリーズ】

《ゲルの復元性》



《ゲルの粘度挙動》



ゲル化剤濃度
 当社製品： 6.6 %（有効成分2 %）
 ポリカルボン酸系増粘剤： 0.1 %（TEA中和）

- 弾力感のあるゲル性状を化粧品に付与。
- 高い透明性があり、ゲルが崩れても元通りになる復元性をもつ。
- 塩類と一緒に配合してもゲルの性状変化がないので、塩類が配合される美白化粧品、美容液などの増粘剤として適している。

■ プロピレングリコール類

原材料価格の変動に対応し、利幅管理を徹底する。

■ 過酸化水素

徹底したコストダウンの継続。

過硫酸塩類、過酢酸、過炭酸ソーダなどで用途拡大を図り、安定した収益確保に努める。

■ 産業資材

水膨張性止水剤は、アジアでの本格的な拡販に向けて製造販売体制を整備する。



▲水膨張性止水剤の用途例（トンネル）

■ 国内の基盤強化

製パン・製菓・洋菓子市場でのシェア拡大により国内基盤を強化していくとともに、美味しさと高い機能性をあわせもつ戦略製品の拡販に注力する。

一方で、品種統合などコスト削減を推進する。

- アロマゴールド
独自素材を活用した発酵バターコンパウンドマーガリン
良質でしっかりしたバター風味が特徴
- ピュアブレンドホイップ
純生クリームのおいしさを生かし、風味と口溶けなめらかな食感を持続する
純生クリームブレンド用ホイップクリーム



■ 海外展開の推進

マレーシア、中国、シンガポールの各拠点によるマーケティング強化と、販売対象各国の嗜好性、機能、使用環境に適した製品の拡充を図る。

< トピックス >

ADEKA FOODS (ASIA) SDN. BHD.

- 2014年9月 加工油脂工場を竣工
- 2014年11月 マレーシアでハラール認証を取得



▲ADEKA FOODS (ASIA)

脱細胞化再生医療材料

■ 東京医科歯科大学が開設する寄附研究部門に支援（2014年11月から2年間）

- 開設する寄付研究部門の名称「脱細胞化再生医療材料学研究部門」
- 寄付研究部門では、循環器系材料（小口径血管、心臓弁膜）、癒着防止材料、創傷治癒促進材料としての機能に注目した研究を行い、2020年頃の実用化を目指す。

■ メディカル材料用実験棟を新設(2014年6月)

- 鹿島工場西製造所にGMP基準*に準拠した実験棟を新設。メディカル材料の安全性試験や臨床試験用サンプルの提供が可能。

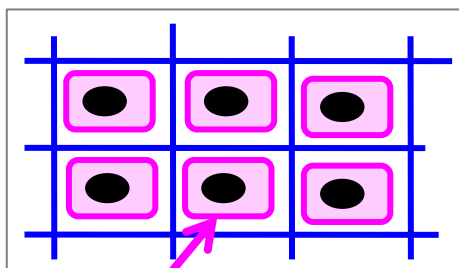


▲メディカル材料用実験棟

* GMP基準 Good Manufacturing Practiceの略。日本、米国、EUでそれぞれ定められた医薬品等の品質管理基準。

《脱細胞化再生の仕組み》

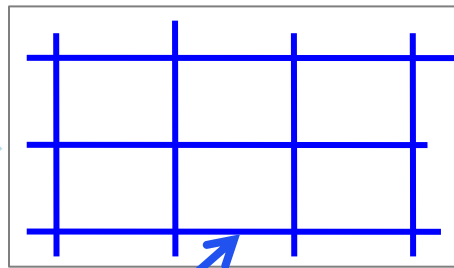
ヒトやブタなどの生体組織



は、ブタ等の細胞
(拒絶反応を起こす)

細胞除去

脱細胞化組織

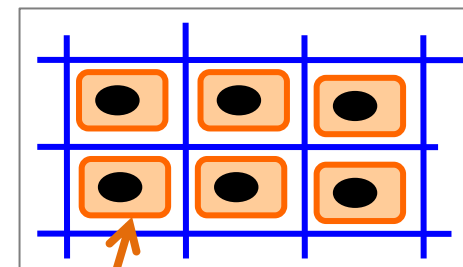


細胞外マトリクス
(主にコラーゲン)

ヒトへ移植

細胞除去により
拒絶反応なし

組織の再生（3か月程度）



ヒトの細胞

**世界へ翔く
成長戦略**

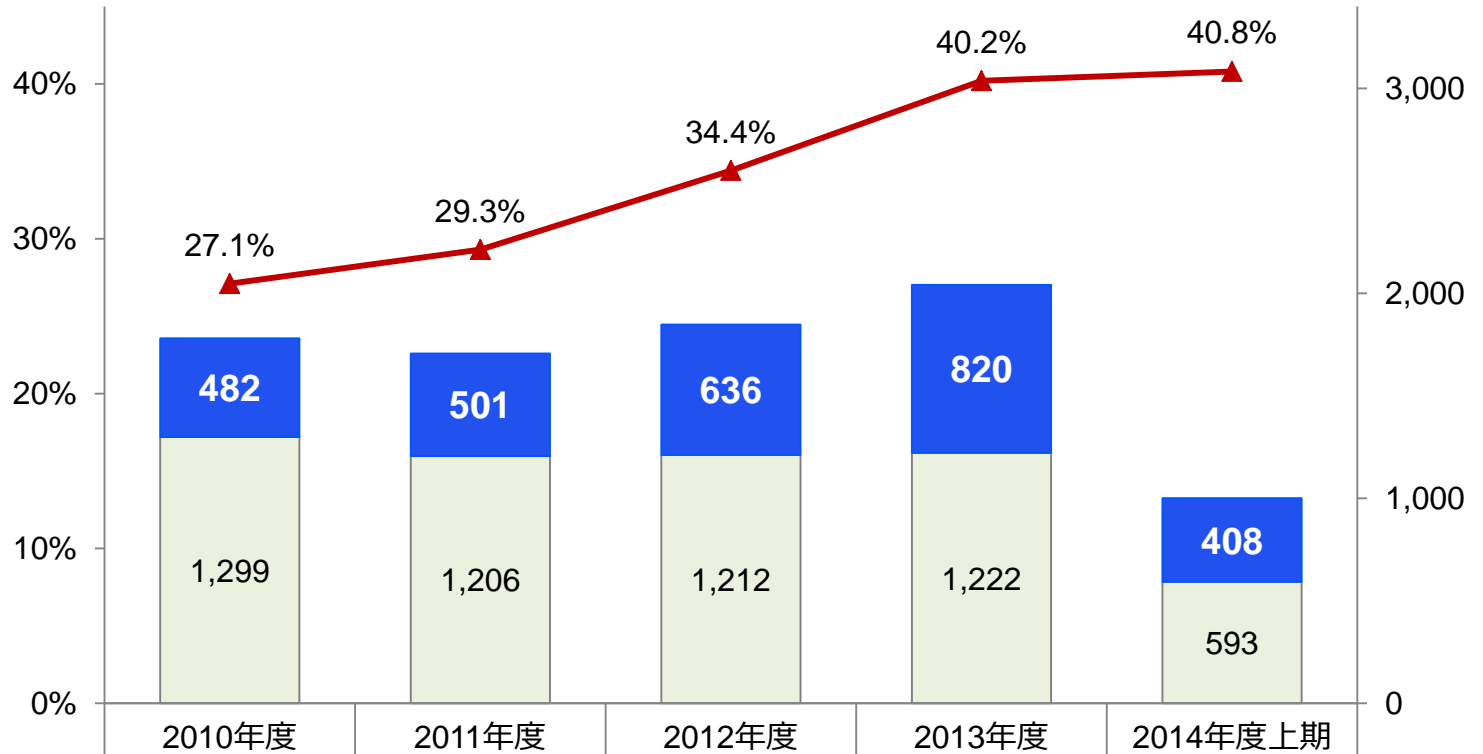
実現させよう

STEP 3000

海外売上高（ご参考）



(単位：億円)



■ 海外売上高	482	501	636	820	408
■ 国内売上高	1,299	1,206	1,212	1,222	593
▲ 海外売上高比率	27.1%	29.3%	34.4%	40.2%	40.8%
売上高	1,781	1,708	1,848	2,043	1,001

2014年度上期（第2四半期）決算説明補足資料

- I. 連結決算補足資料
- II. 経営指標等
- III. ご参考
 - 単独・連結子会社の決算概要
 - ADEKAグループ概要（連結子会社・持分法適用会社）
 - 事業区分別主力製品

取締役常務執行役員 富安治彦

I-1. 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	前連結会計年度末 (2014.3.31現在)	当第2四半期末 (2014.9.30現在)	前年度末比増減
資産の部			
流動資産 ①	126,604	127,113	509
固定資産	116,137	118,042	1,905
有形固定資産 ②	73,826	73,420	△405
無形固定資産	3,649	3,504	△145
投資その他の資産 ③	38,661	41,117	2,456
資産合計	242,741	245,156	2,414
負債の部			
流動負債 ④	62,407	66,003	3,595
固定負債 ⑤	32,535	27,144	△5,390
負債合計	94,943	93,148	△1,795
純資産の部			
株主資本	135,038	138,874	3,836
資本金	22,899	22,899	—
資本剰余金	19,925	19,925	—
利益剰余金	92,438	96,275	3,836
自己株式	△225	△226	△0
その他の包括利益累計額	7,431	7,899	468
その他有価証券評価差額金	3,050	4,175	1,125
土地再評価差額金	3,794	3,762	△31
為替換算調整勘定	2,441	1,713	△728
退職給付に関する調整累計額	△1,854	△1,752	102
純資産合計	147,798	152,008	4,209
負債及び純資産合計	242,741	245,156	2,414

POINT①

流動資産の増加

たな卸資産の増加	1,794百万円
現金及び預金の減少	△764百万円

POINT②

有形固定資産の減少

機械装置及び運搬具の減少	△422百万円
--------------	---------

POINT③

投資その他の資産の増加

投資有価証券の増加	2,273百万円
-----------	----------

POINT④

流動負債の増加

1年内返済予定の長期借入金の増加	5,316百万円
未払法人税等の減少	△1,107百万円

POINT⑤

固定負債の減少

長期借入金の減少	△5,556百万円
----------	-----------

注1) 金額は百万円未満を切り捨てて表示 注2) 有形固定資産の減価償却累計額 149,405百万円

I-2. キャッシュフロー計算書 (要約)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2014年4月1日 至 2014年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,039	6,032
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,149	△5,475
財務活動によるキャッシュ・フロー	399	△920
現金及び現金同等物に係る換算差額	831	△404
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	5,121	△769
現金及び現金同等物の期首残高	29,210	38,670
現金及び現金同等物の四半期末残高	34,332	37,901

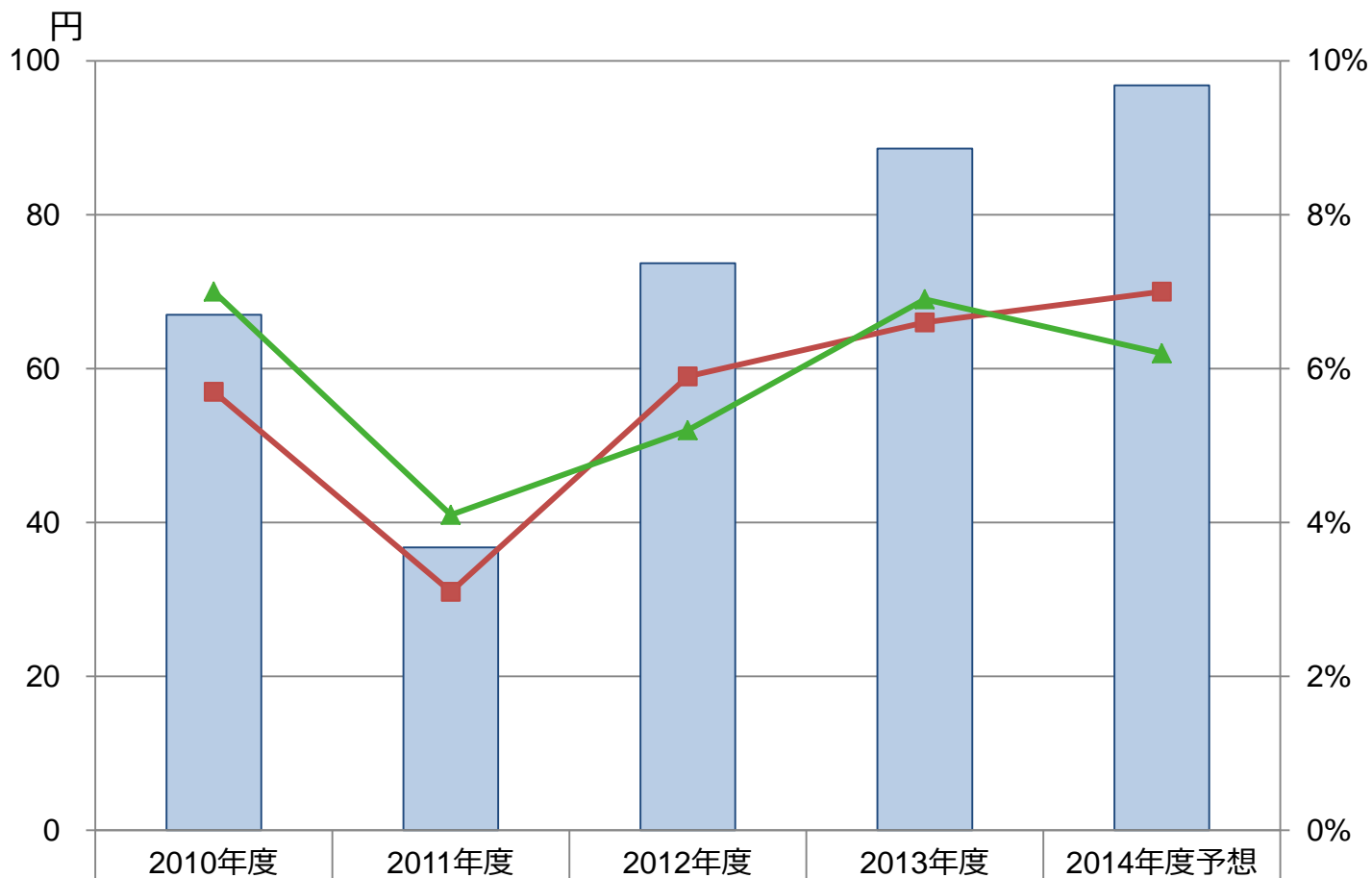
POINT 投資活動による資金の支出増は、有価証券の売却等による収入減と有価証券の取得による支出増が主な要因である。

注) 金額は百万円未満を切り捨てて表示

Ⅱ-1. 収益性



連結

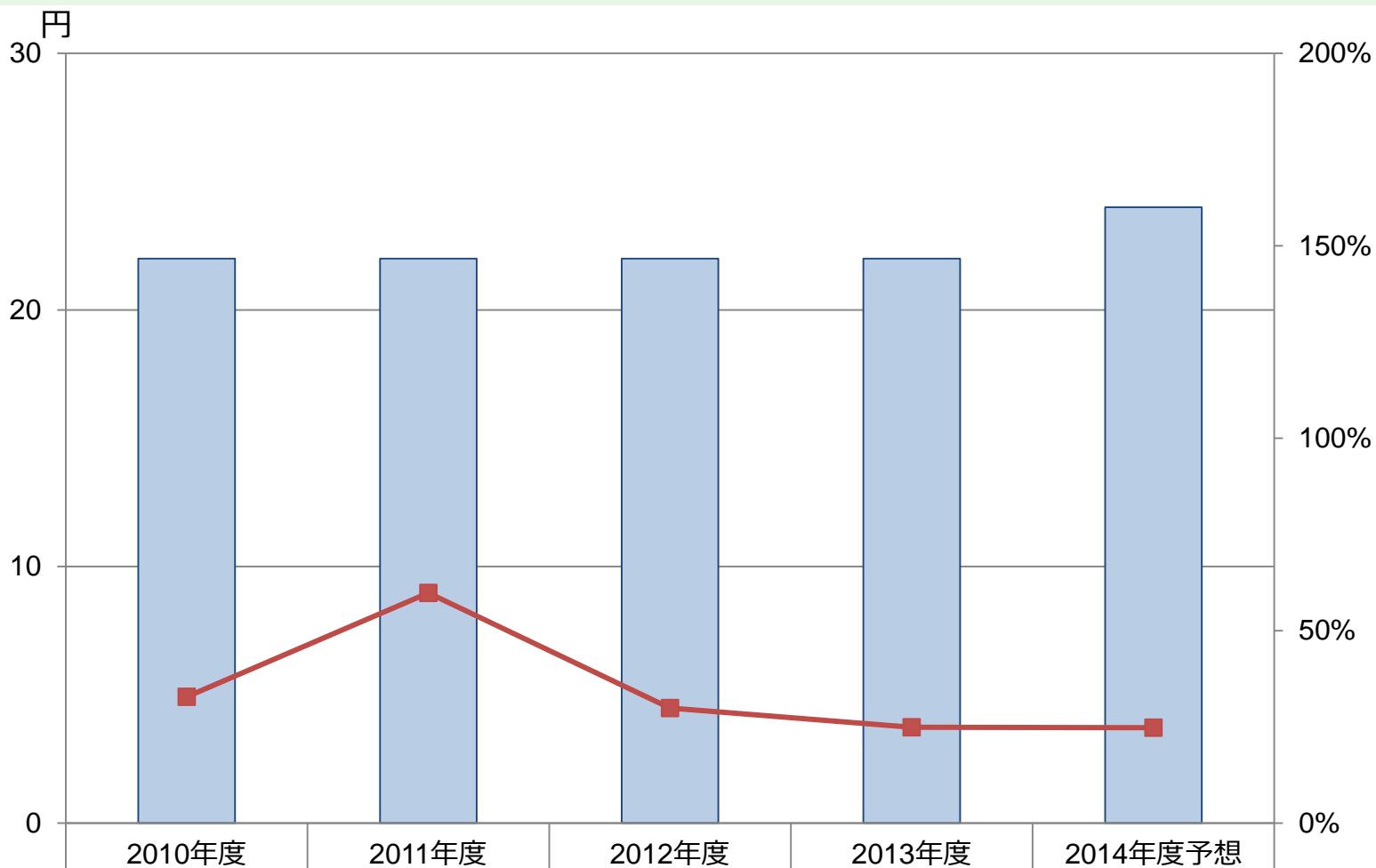


■ EPS (1株当り当期純利益)	67.0 円	36.8 円	73.7 円	88.6 円	96.8 円
■ ROE (自己資本当期純利益率)	5.7%	3.1%	5.9%	6.6%	7.0%
▲ ROA (総資産経常利益率)	7.0%	4.1%	5.2%	6.9%	6.2%

Ⅱ-2. 配当金、配当性向



連結

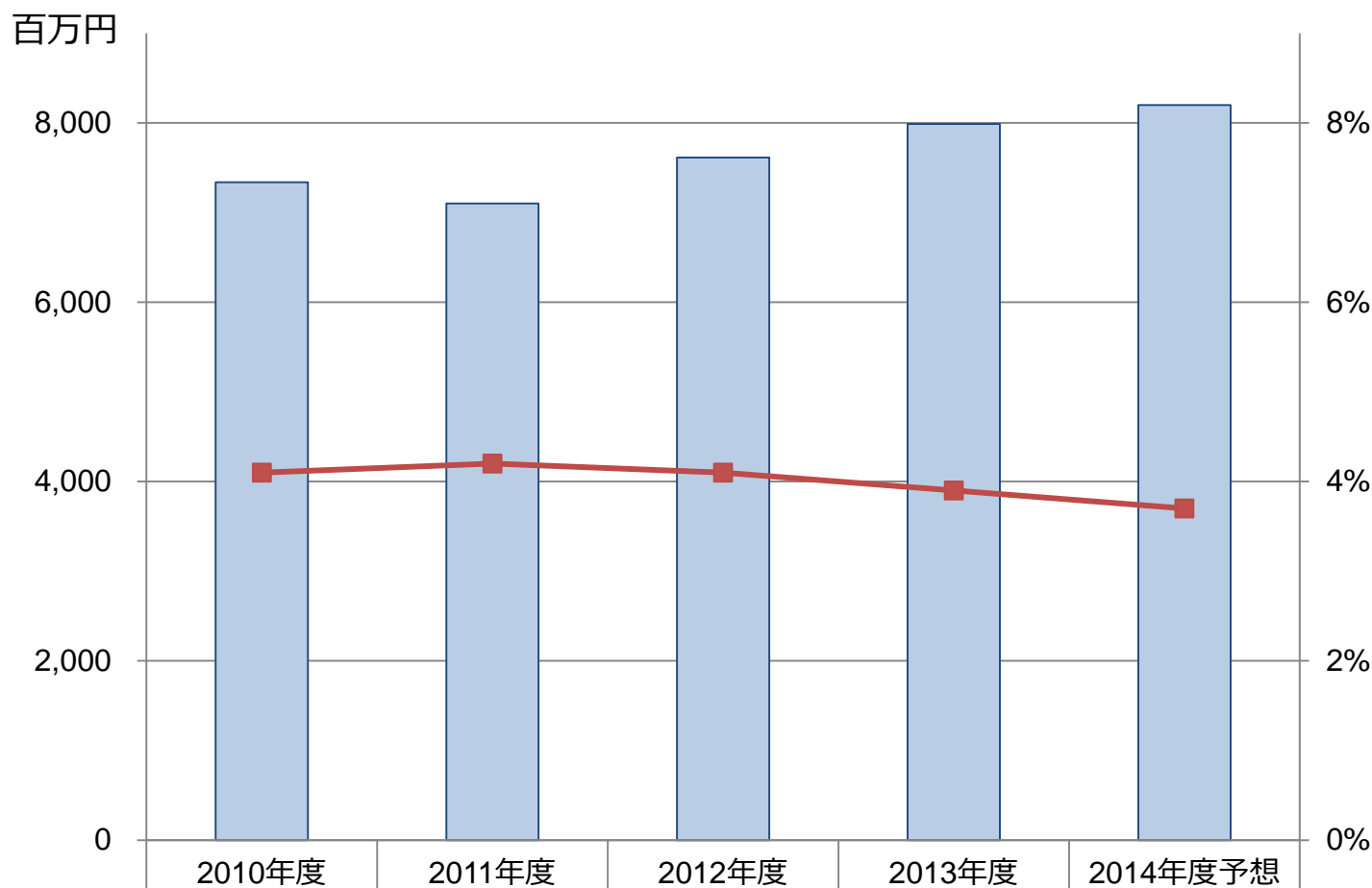


■ 配当金	22 円	22 円	22 円	22 円	24 円
■ 配当性向	32.8%	59.8%	29.9%	24.9%	24.8%

Ⅱ-3. 研究開発費



連結



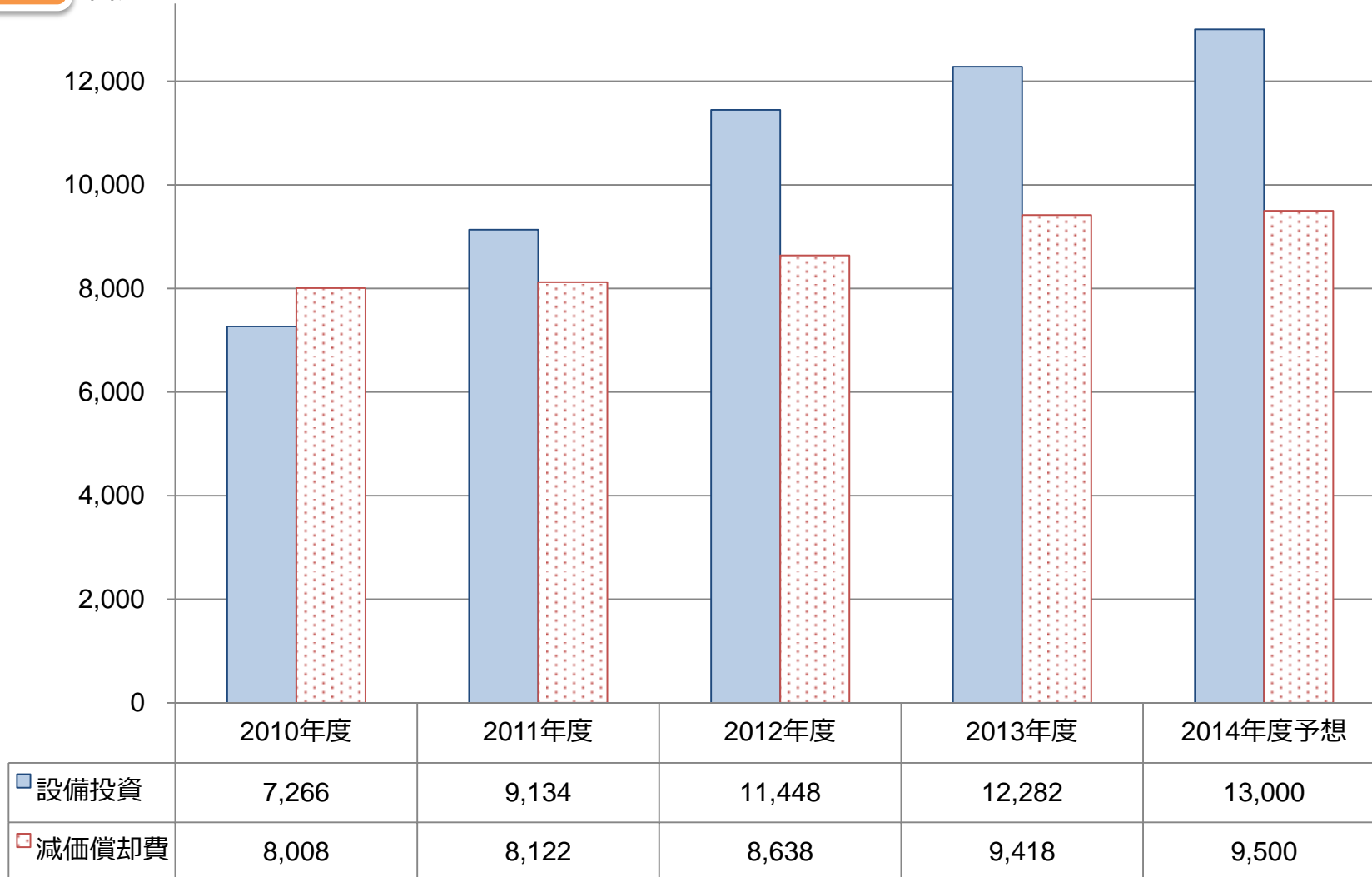
■ 研究開発費	7,339	7,101	7,614	7,988	8,200
■ 売上高研究開発費比率	4.1%	4.2%	4.1%	3.9%	3.7%

Ⅱ-4. 設備投資



連結

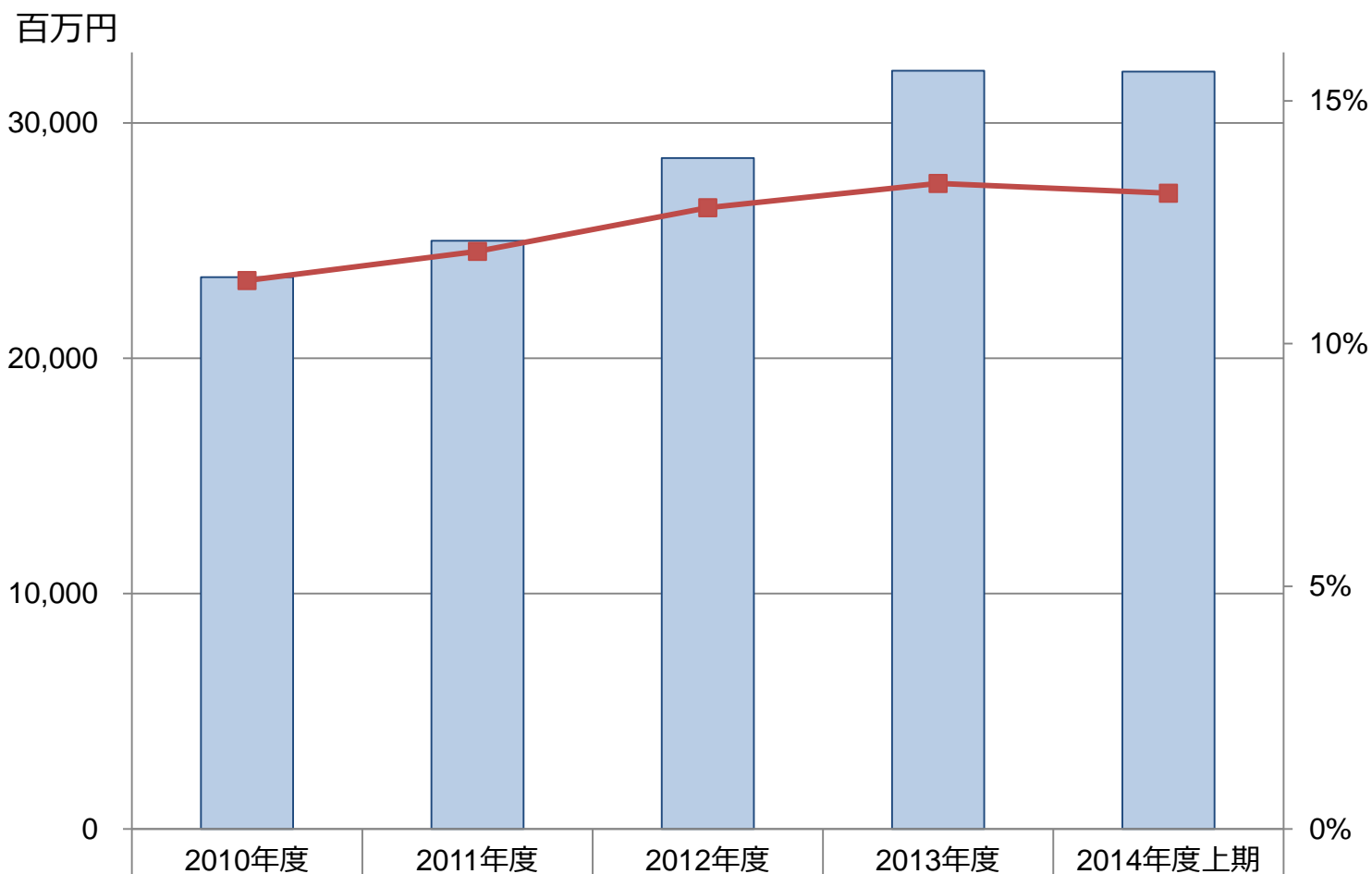
百万円



Ⅱ-5. 有利子負債



連結



有利子負債	23,446	24,992	28,513	32,222	32,180
有利子負債依存度	11.3%	11.9%	12.8%	13.3%	13.1%

Ⅲ-1. 単独・連結子会社の決算概要 (2014年度上期)



(単位：億円)

単独決算				
	2013年度 上期	2014年度 上期	増減	増減率(%)
売上高	570	588	18	3.3
営業利益	36	37	1	5.2
経常利益	37	43	5	13.9
四半期 純利益	24	32	8	34.0
1株当たり 純利益	23.4	31.3		

国内 (10社)				
	2013年度 上期	2014年度 上期	増減	増減率(%)
売上高	336	352	16	4.8
営業利益	5	6	1	18.1

海外 (14社)				
	2013年度 上期	2014年度 上期	増減	増減率(%)
売上高	457	508	51	11.3
営業利益	20	25	4	21.5

連結調整 (消去他)		
	2013年度 上期	2014年度 上期
売上高	△406	△448
営業利益	△1	△1

注) 金額は億円未満を切り捨てて表示

Ⅲ-2. 2014年度上期 連結子会社 (国内10社)



セグメント	連結子会社	資本金	出資比率(%)	事業内容
化学品	ADEKAケミカルサプライ(株)	104百万円	98.04 (間接所有3.61)	化学製品の販売、金属加工油等の開発、製造、販売
化学品	ADEKAクリーンエイド(株)	140百万円	100.00	業務用厨房用洗剤、工業用洗剤等の開発、販売
化学品	オキシラン化学(株)	600百万円	50.00	エポキシ系可塑剤等の製造販売
食品	ADEKA食品販売(株)	42百万円	100.00	製菓・製パン用食用加工油脂、その他食品原料等の販売
食品	(株)ヨンゴー	18百万円	90.94	製菓・製パン業務用資材の卸売
食品	ADEKAファインフーズ(株)	50百万円	100.00	マヨネーズ類、油脂加工食品類、魚介類を使用した加工製品の製造販売
食品	上原食品工業(株)	70百万円	100.00	フラワーペースト、餡類及びレトルト調理食品の製造販売
その他	ADEKA物流(株)	50百万円	100.00	当社物流の総元請、倉庫業、車輛等のリース
その他	ADEKA総合設備(株)	130百万円	100.00	設備プラントの設計、工事及び工事管理、設備メンテナンス
その他	ADEKAライフクリエイイト(株)	65百万円	90.00 (間接所有10.00)	不動産の売買、仲介、管理、損保・生保代理業、OA機器職域販売、ビル・社宅等の管理運営

セグメント	国名	連結子会社	資本金	出資比率(%)	事業内容
化学品	米国	AMFINE CHEMICAL CORP.	1,600万USドル	60.00	樹脂添加剤の製造・販売
化学品	台湾	長江化学股份有限公司	3,000万NTドル	50.50	樹脂添加剤及び特殊可塑剤等の販売
化学品	韓国	ADEKA KOREA CORP.	150億ウォン	100.00	化学製品の製造・販売
化学品	シンガポール	ADEKA (ASIA) PTE.LTD.	80万USドル	100.00	化学製品の販売
化学品	ドイツ	ADEKA Europe GmbH	50万ユーロ	100.00	化学製品の販売
化学品	フランス	ADEKA PALMAROLE SAS	300万ユーロ	90.00 (間接所有90.00)	樹脂添加剤の製造・販売
化学品	台湾	台湾艾迪科精密化学股份有限公司	2億NTドル	100.00	ADEKAグループ製品の販売
化学品	中国	艾迪科(上海)貿易有限公司	100万USドル	100.00	化学製品の販売
化学品	中国	艾迪科精細化工(上海)有限公司	2,050万USドル	100.00	樹脂添加剤、機能性樹脂、電子材料等の製造・販売
化学品	中国	艾迪科精細化工(常熟)有限公司	2,154万USドル	50.00	樹脂添加剤の製造・販売
化学品	タイ	ADEKA FINE CHEMICAL(THAILAND)CO.,LTD.	3億5000万バーツ	81.00	化学製品の製造・販売
化学品	米国	AM STABILIZERS CORP.	850万USドル	60.00 (間接所有60.00)	樹脂添加剤の製造・販売
食品	シンガポール	ADEKA(SINGAPORE)PTE.LTD.	800万Sドル	90.00	食用加工油脂、冷凍パイ生地及び関連食品の製造・販売
食品	中国	艾迪科食品(常熟)有限公司	1,500万USドル	70.00	食用油脂、油脂加工食品の製造・販売

持分法適用会社	資本金	出資比率	事業内容
日本農薬(株)	10,939百万円	24.20%	農薬等の製造販売
(株)コープクリーン	80百万円	46.88%	石鹼、洗剤等の開発、販売

※ 持分法適用会社の増減はなし。

Ⅲ-5. 事業区分別主力製品



事業区分		主要製品	
報告セグメント	化学品事業	情報・電子化学品	高純度半導体材料、電子回路基板エッチング装置及び薬剤、光硬化樹脂、光記録材料、画像材料、その他
		機能化学品	ポリオレフィン用添加剤、塩ビ用安定剤・可塑剤、難燃剤、エポキシ樹脂、ポリウレタン原料、水系樹脂、界面活性剤、潤滑油添加剤、厨房用洗浄剤、化粧品原料、その他
		基礎化学品	プロピレングリコール類、過酸化水素及び誘導品、工業用油脂誘導品、水膨張性シール材、その他
	食品事業	マーガリン類、ショートニング、チョコレート用油脂、フライ・調理用油脂、ホイップクリーム、濃縮乳タイプクリーム、フィリング類、冷凍パイ生地、マヨネーズ・ドレッシング、機能性食品素材、その他	
その他	設備プラントの設計、工事及び工事管理、設備メンテナンス、物流業、倉庫業、車輛等リース、不動産業、保険代理業、その他		

この資料に記載されている業績予想、事業計画は、本資料の発表日現在において入手可能な情報および種々の前提に基づき作成したものであり、実際の結果は、今後生ずる様々な要因によって、予想、計画と異なる場合があります。